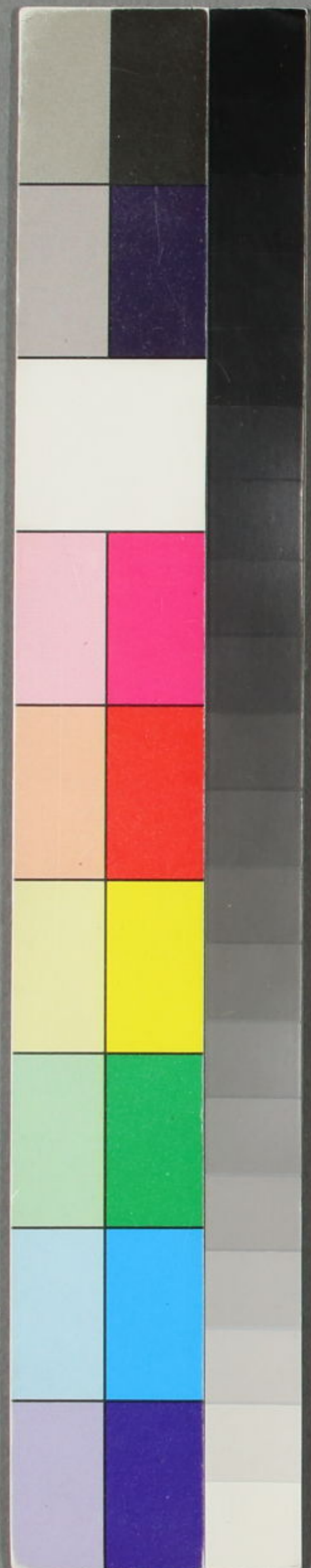


文法  
子部  
才七  
冊  
欽  
書  
向  
秘  
夏  
口  
授



書禮法式全十一冊表裏口訣之中第六冊

欲書向之秘事別口授之趣清書之一紙

一 書礼法式部合十一冊之門第六冊目之先院御演説

之紙短冊之書載之依先師之旨授之別書

之書千金英傳之授之先師之旨授之別書

念以上之書法十一冊之表裏之別書

冊之備不致免伏の位之七、不為口授之秘事

毫末之書、家之秘事之千金英傳の授之別書

之秘事之小抄之書也

一 三光院、之其也時之御藏少くい家、若事相備

而公武共用ひ、わけ可分減回信長之右筆、本拜肥後

之人より徳を方々傳授の人也此の人三光院に同書  
す其書より出たりといふ冊目も色紙綴冊なり其書は  
三光院の所蔵に長年の所蔵ありし所自筆の書調  
は進是別今の世にも武家におおく其書綴冊の書法も  
何より

色紙綴冊之外才法秘卷之變

一 色紙綴冊の起るといふは帯に上古の書物も綴冊に定家  
以来に物也といふは色紙綴冊孝徳天皇より始事難拾遺集  
見たり上古綴冊の起りて大く之紙は有名家綴冊は

常しくいふ所の河原物末代にも室と成る世定家  
も色紙といふは小目出るといふは書て被傳の室成  
といふは定家河原集の年と年と色紙も有る  
也といふは小倉の百首と年といふは年といふは  
細い定家河原百首と年といふは後入和傳といふは  
河原後の河原小倉河原百首といふは百首といふは  
仙達乃河原百首といふは年といふは年といふは定家  
河原の河原根といふは思ふといふは歌といふは  
百首の百首といふは年といふは河原百首といふは  
京都小倉山花名百首の百首といふは年といふは  
河原百首といふは年といふは河原百首といふは  
河原百首といふは年といふは河原百首といふは

おわくくら捨久き宗四嫡子の為家心乃心首は家父ハ  
名乗母は少らるる山在まてを家くら捨久んハ  
いふ帛紙世に流布しと父の在母名と天下に  
流りんとその為家師の思古立成今名今名世其室も  
世に百人一首紙小倉とてふといふ之を採りて事其と  
名紙と上右のりの物を終り

一 龍母の記ハ二流ハ各面白く同理也

遠道院棟骨立不破の園ハ口ハ一書の古園如く  
初め御徳に付る沙歌ハ其趣向も其心歌ハ

人住ぬ不致乃園屋孔板也

あまのりつら只秋の風

此の沙歌とて園とてハ口ハ下沙下ハ心も遠道院棟  
骨沙歌紙実る難なる事とて此書ハ遠道院  
骨これとて園屋の板也とてハ口ハ下沙下ハ心も  
のり板とて人とは定る板也とて遠道院棟ハ  
園とて下沙下ハ心も園とてハ口ハ下沙下ハ心も  
これとてその心趣向も一書ハ口ハ下沙下ハ心も  
あめいも腹向も一書ハ口ハ下沙下ハ心も  
川入とて遠道院の板也とてハ口ハ下沙下ハ心も



今世の色紙六段あり如左口傳ス

一 色紙大ニ段 立六寸四分 横五寸五分

一 文紙中ニ段 立五寸七分 横五寸五分

一 色紙小ニ段 立四寸二分 横四寸五分

一 色紙小ニ段 立三寸七分 横三寸五分

一 綴冊寸法口傳ス 長を尺を寸五分

右ハ平人の綴冊と云文ナク有

一 綴冊幅を寸九歩 長を尺一寸六分

右ハ沖製を平人の半寸の綴冊と云文ナク有

一 綴冊幅を寸八歩 長を尺一寸八分

右ハ沖製を平人の寸の綴冊と云文ナク有

一 綴冊幅を寸七歩 長を尺一寸二分

一 綴冊幅を寸六歩 長を尺一寸二分

一 綴冊幅を寸五分 長を尺一寸二分

右ハ不致の底乃夜と表より綴冊今世ハ押並て用らるの綴冊ハ是之跡然上位の方へは幅廣長きは平人定家隆乃此流の綴冊と云く可物也

一 小籠冊とらふ指に其方へひと号ハ膏禱しく寸法は紙  
 而大幸也其仕法ハ紙底の板底乃紙表より籠冊紙  
 直長板より寸法ハ式ハ幅板より又二つたて以上四板紙  
 小籠冊と云是ハ紙と向直ハ寸法幅九寸長二寸と  
 知くとも寸法ハ紙底紙は紙底より正紙半寸あり  
 一 木の花並心木の枝開乃るさそ外に物付人の得ハ  
 可きく贈り付とい小籠冊ハ神代紙或は御書紙  
 小籠冊小籠ハ一から紙やそ外に紙表板紙也  
 あつらひしごとく紙や

一 節と云はく乃寸法ハ籠冊紙直ハ一から是ハ式ハ式と云

あのはまは乃式と抄也  
 一 節ハ寸法合乃寸法ハ合ハ式ハ式ハ用ハ式ハ式ハ式ハ式  
 抄置乃外ハ一から紙やそ外に紙表板紙也  
 一 節半の紙ハ押置紙ハ式ハ式ハ式ハ式ハ式ハ式ハ式ハ式  
 式ハ式ハ式ハ式ハ式ハ式ハ式ハ式ハ式ハ式ハ式ハ式  
 一 懐帛寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法  
 寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法  
 一寸製大ハ祖帛ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法  
 大匠ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法  
 殿上人ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法  
 公卿殿上人ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法ハ寸法

武家押巻て是人之二分の祖紙小

但依武家上位上官ハ人々祖帛と月々上中下の  
別あり

- 一 法中も跡院家出世の信友 平儀其位上依て上  
中下の別あり
- 一 時折り常小奉書小をとり用也
- 一 廿中ハ落や法中を其外交乃紙とて用也
- 一 けりて色帛の書法と為り

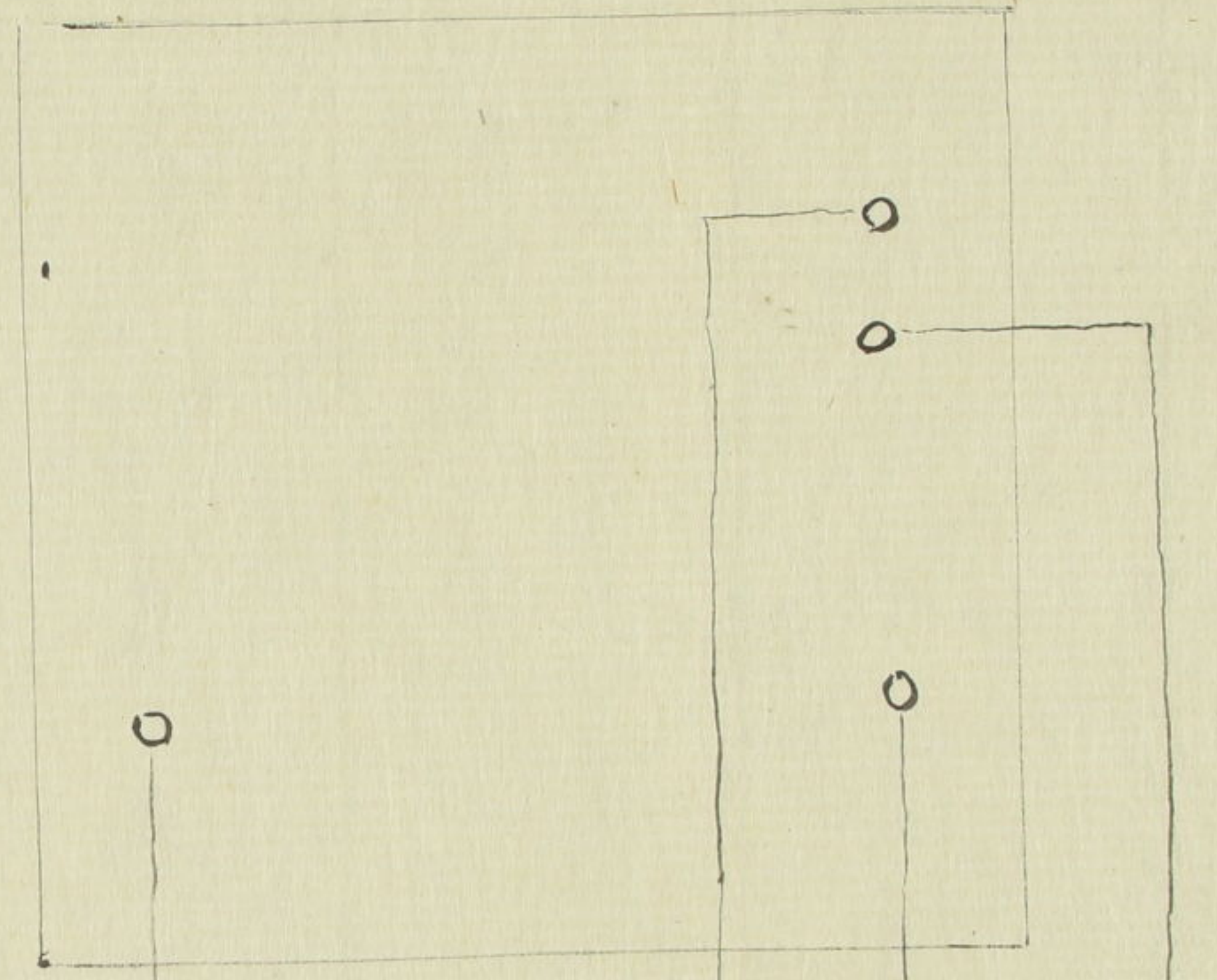
行一とめ  
 少儀や乃也  
 ころもり  
 是等の満風  
 波も残り

是と藤玉指と云  
 又行一とと尋く  
 世らへ下紙乱り  
 不辨とて中

同中一は後玉等の中か  
 一人乃  
 名はは川中下書屋と昔是り



上下の差別有る所を記す



上位ノ名所

上位ノ名所

星御製之御製  
才古年向くは字の  
あり後名好院ト  
名前ニ上テ書ニ

下位ノ名所

後名好院  
落葉浮水  
いしししん  
おろこしん  
ありこま  
わかしん  
今乃ししん

御製古年向くは字の  
又類之四字又五字七  
字少くは又向く上ニ  
落葉浮水

落葉浮水  
通村

表目野の口し  
ふれ乃ちあし夜  
此ふのこも  
沿ふとくはせ

是共立石極を又  
立玉極を以頭羊名  
しあ時と書極前  
最花極い

是と障子唐紙押紙と  
ふ名取の糸  
文字の  
こり書

表目野に  
こり代といふ  
しは神  
ら年

得乃くこ明石の浦北  
阿さ香に  
まこ  
松

表代美の  
か

右と分水石極  
一字宛書  
へ

右と木立極  
は

一 種冊に書形を凡

書と今に於てひまのうと吹はよ  
ありふたひとて録乃字書

は種冊に之類を名書方上と句に字にほひりま  
しよ上のおり上を字上と書と何と書も下の句  
のりら字形への下を字上と書と何と書も下の句  
いら下乃留上下揃て七分のへとていへり

書と今に於てひまのうと吹はよ

りらにのりて山此字書字書

右に字類しよりしと名書有本取大と前と併上と句  
五分のて下と句に富の字上と書と何と書も下の句  
のりらにのりて山此字書字書

村のりて山此字書字書

りらにのりて山此字書字書

右に二字取ありと名書有本取大と前と併上と句  
五分のて下と句に富の字上と書と何と書も下の句  
のりらにのりて山此字書字書

ひまのりて山此字書字書

ありふたひとて録乃字書

右に一字取ありと名書有本取大と前と併上と句

いふに類する名宗の時の書法とたあ

浦島

おをまの波のうらをてわのり浦や  
やあまのまをく田島をひまの

浦島

おをまの波のうらをてわのり浦や  
まあまのまをく田島をひまの。

右二字歌より名宗より二文字共書法大くはる字  
歌よはあ

芦間島

おをまの波のうらをてわのり浦や  
んてまをまの島をひまの

右二字歌より名宗より書法は趣歌とわわのり浦や  
あまのまをく田島をひまの。上下共字の趣と云り

芦間島

おをまの波のうらをてわのり浦や  
んてまをまの島をひまの。

右二字歌より名宗より書法は趣歌とわわのり浦や  
あまのまをく田島をひまの。上下共字の趣と云り

早苗

早苗

右四字歌より文字のつぎは早苗なり二行より別  
中に分く早苗二字類同本也名宗よりてあを

二字歌と并の才便に五字六字七字も同一や

春風春水

一時来

七字八字文字小よも如し顔文字小ッつめて帯の  
半出と小月さく高くと五アの半出と下や分と半  
柄ハ歌二字と半つ同しやむ名宗よ云様

右色紙と種冊の中つ定まらぬ如し也外色集種  
共あり書夏と教よにりんと法書所といへ又  
むいりも是れ未といふ其外世中の色一たんと  
まのつと種あり猶未といはれ

右色紙種冊乃云の次格男女共普夏はり上と句  
五文字と下の句此る七文字と書つ可也  
まのつと種あり猶未といはれ又外  
お二行七字小半と夏はり小冊

一 け書札法や六冊り小色紙種冊より一首と書  
けり如く書二行七字半と又色紙種冊外  
以外の字より紙入てふか一字莫る  
半也なり紙小半と一そ又りあふ書  
一首と外はりの相乃小と書のはひり  
屏風其外不依何も一人のむむり半なり

君り代に何より乃てこれ路も

やれはききくわつをばよぬ

いけやなしくる森

如し三行書字小本付名つ書つる上句次一首のりさ  
て下句をつれりて書はば一首書へ一ツ書よ  
つ書つる上句の一首と知もてぬし人の書の終  
んんをなぬじ事る道に三行書字小書て折書よ  
見より其上にらるるも亦乃上の句下句の字  
にいん(き)つ(海)はつ(物)つる(道)上句と下句と七文字  
小る書はば一首書て存是時より一(心)管(沖)あり  
る(発)想(又)亦(信)く(ら)り(事)は(言)は(色)紙(植)冊(の)教(書)指(法)

おふく本屋さや

一 物の下乃類号と人をたす随分の筆深へし  
歌号は定家端と人志んやくあすれと一併つと  
れじと深く詳述やも亦依而却る不有礼然付書  
止事歌号の段中本調中おの及ん端上の方ちと  
さる人全部の書りの中は法屋の原書と人の  
法入るべきも此書不有る礼とす

一 肩より書本をも人乃れたはは(由)く詳述はる  
度をも此は(り)る(事)は(書)の(終)り(又)字(乃)ら(ぬ)る(小)  
二行より(り)る(事)は(細)く(書)色(は)る(こ)り(色)一(所)く(と)る  
年(何)れ(と)法(梅)は(ら)あ(る)う(う)あ(る)は(ら)る(り)  
と(と)い(ぬ)ん

此のほかにくろく書  
じいおととにたりたり

めは二行いづく弟細書為く可本本也從又らり本  
あし末口傳

今初より中より小分本もまらり書小分付も記作者  
不不之併記作者のあやの記し是のいろ紙可本也  
歌他者之しやししと云ふも本は(のいろ)分と云  
屋上本等も人の地乃弟一也人の同付信と云記作者  
者誰河の集より分ことバより可書なるなり

一 世中の色紙組冊も本取を別天子れ共しつかる多  
この書之名不本法に子細に同書の上らう女官ありか

其官名代書と余ハ名ナシ雖然鳴の付女よりと  
いしとも其名をいし御製同本にく女御又此  
御奇り紛る所小分誰室誰女ト書之係此下  
或天野氏室母トの書也又姉妹と誰姉誰妹とい  
書未為姉妹ハ何氏ト書之亦同く書合を別ハ女も常に  
別名代求可本之是ハ又し私し本れり馬名官  
いなく本也

一 又同詠單之分と二行七字り書く之れ初の口傳り  
色紙組冊に介二行七字り本又り小分本付ハ  
頭名乗不書ト也詠草も二行七字之是歌名乗  
と本本より言是於和奇會席名頭と標り詠  
とらりといん詠草より本く信能の師へ名を

見批判と清りし後総冊より写れり字の印者跡  
 少人詠まひりいづ書こころく方字向る本より筆  
 と柳りも字道の夏と喜と紙とと粗と初とては筆と  
 深とゆもとも名味為し初と末とはゆも

右雲井の印字舎しく式并於地下

いふと云く法式末粗の口傳

是の色紙総冊に教書と印と只傳

色紙に教め此也

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 上 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 中 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 下 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |

様らる木の  
 風ハ  
 教書に習アルヘシ

是と上下を字  
 記ふりゆや  
 教書夏也印者の  
 名ハ二頃の書法  
 行つて下名書  
 出筆立初筆の如し

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |

様らる木の  
 風ハ  
 教書に習アルヘシ

是と下上教しと  
 不書しと也名  
 行つて下名

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |

星此はまの  
 教書夏也印者の  
 名ハ二頃の書法  
 行つて下名書  
 出筆立初筆の如し

此ニツ七同上  
 星此はまの  
 教書夏也印者の  
 名ハ二頃の書法  
 行つて下名書  
 出筆立初筆の如し

是と下上教しと  
 不書しと也名  
 行つて下名



右 中納言定家

ふゆの山にまや  
しつし海にゆき  
見ゆる天とのそよ  
る

右 俊三位家隆

物といたくあつ  
如きは友事にあつ  
これことのも  
とる

右より左へ并合せし書尺は二行二字一書尺一右三行二字  
書尺一尺に重右に極尺石といへし二字と續く尺皆冠首  
通よりゆく中へい小字に方名と并の字も今からいあやふ  
行くへりて書く宜しく  
お新色紙に大小に揃ぬ傳文字はより合可書に猶又  
大夏の教極く口傳に別れ尺小字に記す

是に五儀教にふ大事の  
書法也よれし書に極別  
押並く不書夏也大事

是に之候を字らしこ  
ふ大事の口傳に教  
極に候しとも意味に傳  
は不可深事大事

は  
神小身うえに  
うら  
うら  
色控字 効りふ

八雲  
たけ  
出雲  
八重  
は  
は  
は

右二紙紙教書至極大也初の五紙より一紙ハ一  
の遍序題曲流の五行と題と尋くく知し之教  
ハ教限五句乃び一とく之と記之偶ハ二種之乃設毎  
月晦日を度文會一をまふ然る年中一拾之也是と書  
一とく之四十二位ノ教一外ノを字ノ差除くらしとハ  
毎月ノをを設一をふとの表後之字一又母の字ハ  
かたりの夏ノや是ノ位ノ極極秘窓ハ建共ハ  
教ハ不口傳ト云ク

一 鳥の田付と小なり本居のつと眠れをさほれいと法乳

小く見れくもこのたもを成さ小和と乃ら羽つ  
中へせ行自在ト云ク一とく之をさほれいと法乳

ゆりもまら雲文清ありかん一とく之をさほれいと法乳  
はやくと日ハ小と之又文字はくも二ト之字ハ文字  
ハ文字一平ハけけ刻筆知カ不弱生くと云ク安小  
くもを又字ハ位乃らつと一とく之をさほれいと法乳  
白紙ハハ均れり

一 落玉とりの花ハ咲初くと見一と目あなとのり一老若共  
ハ字ハらまもはらと云ク一和のたされとも漸成  
教ハも極かん一と云クハかハ外ハ中ハ一と云クハ  
と云クハ雲文清花の名ハ此字始ハ極ハ云クハ  
文字はけは極ハ一同志ハ一と云クハ一と云クハ  
ハハ一併祝の奇ハ一と云クハ一と云クハ一と云クハ  
吊ハ一と云クハ一と云クハ一と云クハ



書致と二(一)は是也

考一(二)の

一(二) 即この也  
いつそり

大町ははる博こつろし致しかけよめ世しころん

|                                 |                     |                  |                  |
|---------------------------------|---------------------|------------------|------------------|
| たまひの<br>たえゆぬ<br>り<br>かえり<br>せしゆ | 中さこい<br>は<br>せ<br>せ | り<br>あ<br>は<br>は | り<br>あ<br>は<br>は |
|---------------------------------|---------------------|------------------|------------------|

右を志暮の奇致を極し下上中々上下とらりゆら  
 是画小人乃りつへまうくとりせり付極書志の  
 中々心意の上氣も極とらりゆら極しは是も  
 頭ゆきの名とふ才法  
 又常は志暮を致し書しめい如色し毛り

名りは書屋しを二(一)は是

|                      |                  |                  |                  |
|----------------------|------------------|------------------|------------------|
| ようさこい<br>は<br>せ<br>せ | り<br>あ<br>は<br>は | り<br>あ<br>は<br>は | り<br>あ<br>は<br>は |
|----------------------|------------------|------------------|------------------|

又常は志暮を致し書しめい如色し毛り  
 の書外の紙り書しめい如色し毛り

|                      |                  |                  |                  |
|----------------------|------------------|------------------|------------------|
| やうさこい<br>は<br>せ<br>せ | り<br>あ<br>は<br>は | り<br>あ<br>は<br>は | り<br>あ<br>は<br>は |
|----------------------|------------------|------------------|------------------|

|                  |                  |                  |
|------------------|------------------|------------------|
| り<br>あ<br>は<br>は | り<br>あ<br>は<br>は | り<br>あ<br>は<br>は |
|------------------|------------------|------------------|

い  
おろ  
ろ

此天七分

此天五分

此天五分

此天五分

此天五分

乃  
乃  
乃

乃  
乃  
乃

此は後の一字  
分れて見せし  
二書へん

右二色の綴母上は記之候へ上下明ふ分は書次ハ金と極く此

書法ハ二色を字の教ハ第一色帛ヨリ入本の教ハ二色

也めりし不可書法ハ分別二あり候云々

又折白ハ不可書法ハ一色ヨリ入本ノ教ハ二色

候云々ヨ目キハ折リキモの也ト云ハ

の  
の

き  
き

事  
事

そ  
そ

未  
未

た  
た

如幼より〜のり也然共是ハ綴書ハ不えて乃文字  
つひ也初心ハ初まハ〜候云々ヨ目キハ折リキモの也ト云ハ

から  
から

き  
き

つ  
つ

を  
を

た  
た

初ハ〜初ハ〜候云々ヨ目キハ折リキモの也ト云ハ

又留冠守ハ教ハ〜候云々ヨ目キハ折リキモの也ト云ハ

兼好法師

義星

二七書

如新也名と書と云ハ上の句止高の折れ乃中央より  
第立下り折れ一をいし可書為一又名不書内必凡之  
たこハ

らあせうし  
祇たぐりせこ  
はてしなく  
おとろく  
おろく

名不ぬけりり上乃折れつ分の二分天張ゆく下ハ何れり也  
書下之右二枚の本法此冠用ノ字とを字宛書と外ハ  
幾字も第何れも可書折の本法能く申おほせは  
いらゆとぬくおひの市人の足おほへはる小本本也  
ヶ様と類又外も有一人ハ色紙綴冊と介の帛と書とを  
け紙の奇ハぬい教一ゆや

一 前にも如口傳抄日雲の綴冊紙真綴冊と外ハ略紙  
川合鳥子奉書 又乃紙等綴冊と云用天地を  
萬物ノ天地陰陽上下云ハ法外抄雲天よのわれ雲  
とて清くは雲乃雲成るなりいらぬ乃色ハ色ハ天ノ色  
青く成る者ハいらぬ乃雲成上りて綴冊書といへ又  
紫ハ青黄赤白黒の五色此外乃色ハ綴冊紫白の禁  
裏ゆりの色とて色ハ色ハ綴冊の重色紙二用  
打書と云りもハ色ハ色ハ天下の色又紫の下紙  
上りて書と云りもハ色ハ色ハ送也帛送善祥世の奇是ハ  
紫上りて用改ハ常り不用ト云リ  
一 帛送善の綴冊と云有類書と云くハなるも  
いろくハ紫と云りハ乃すれハ別ハ紫と云りハ

書色薄く文字乃らしくは、  
 後乃落玉る  
 後乃可心得むい方の名実真上  
 言や由神  
 去別本石是より記又祥世乃  
 方、後冊ひくはとよ  
 予くを

|        |    |    |
|--------|----|----|
| きこのふ今り | 思ふ | 業平 |
| 伴おり    | り  | 字  |

祥世のすいめ、  
 留の何分ト、  
 留上ノ句ノ箇の一字と  
 申あ、  
 何々々々人の状

一 何中、  
 賀の款、  
 賀の款、  
 賀の款、

|                     |    |
|---------------------|----|
| あ、人の<br>今年<br>八十乃賀と | 名実 |
|---------------------|----|

又如け、

|                     |    |
|---------------------|----|
| 人の、<br>八十賀、<br>對鶴延齡 | 名実 |
|---------------------|----|

亦言、

五題小名集の書法やせり

傍さくを山名かあつる尾の

ありし何れも名集

右二品の綴冊乃書極めけし外の祝をまは何と祝ふといひ  
居るをよもや紫中りつる一書つる書あは極上の上の文字  
下乃七文字此書もたの極むく濃く文字乃もさらさ  
二字の字とほあは飛鳥めさゆり可きこめし書この  
綴冊包の柳頭ははくこ中と水引もくかけ綴冊包  
へく送る也

一色紙少も書きりい書紫中りつる一書つる書あは極上の上の文字  
りつる一併取わく半合一書紫中りつる一書つる書あは極上の上の文字

爲る格式の色紙乃書法りつる一書つる書あは極上の上の文字  
こゆ小若く是も色紙中包ははく上水引もくかけ色紙  
箱へ入くこの送る也

一色紙綴冊人の汗へ入て送る一書つる書あは極上の上の文字  
あはく色紙綴冊ははく書法りつる一書つる書あは極上の上の文字  
丸若く

一右書色紙綴冊と略し一書つる書あは極上の上の文字  
一又人あはく六義乃汗乃中二首此色紙は綴冊ははく書  
りつる一書つる書あは極上の上の文字

二所より二字歌のこも類本何れも何れも二字  
歌の中ははく名と書つる一書つる書あは極上の上の文字



何歎也すく可とは如法にねめ共すく名書人  
一 依く六義の方乃文字とめい書ト居ス

風賦比興雜頌

ソハ カツヘ オスス シヤ タコトイ 畢

け六字と書きとくハ 雜冊よりハ

風歎

難波津は浪やのち冬大なり  
いよいよとくく座はを王仁

賦歎 墨王

如い何は可

去也又去紙より

いんまめい去く

么紙雜冊去

つ書つる常の

し

さくむり  
おひけく方の  
あちあち  
こいこい  
わらわら

一 風賦二く奇ハ色紙雜冊の書法記取其外ハ義とくに  
記いけへる極下可乃六義こふハ以上その方

比歎

まろりけりけりけり  
こひこひこひ

興歎

我恋ハハ  
そまのゆき

雅歎

ゆき乃るる  
りこの

頌歎

此友ハハ  
こけり

尾にく好上六義の奇乃ハ首ハ又同方ハ又ハハハ

萬物去父母... 御言葉... 鳥尊ノ八雲立出... 妙く半也... 難... 今... け... 清香山... 此... こと... 終...

清香山... 此... こと... 終...

此... こと... 終...

一 右の義の... 宋... 口...

宋... 口...

一 是... 宋... 口...

宋... 口...

詠草... 梅...

梅... 道之

名... 苗... 記

前二六二可ぬり付ハ二八又を八はゆル

思初早苗

道元

|         |
|---------|
| 仁とト思初早苗 |
| は程の如きぬ  |
| 子の苗様    |

前ノ内也若斗テ

思雛子

名宗

ハ紙ト又  
二首ニそ  
其六首中  
二首取リ  
水引き紙  
付まい紙  
此者下記

右二首の詠草書法也三首まうもけ長小中一思首ハ不  
裏工止レ用小不立有紙を敷綴る也類形也  
前ノ歌乃出レ頭在り小方の前一可書是言教何  
十首中ても帛と何れも綴る也ハ乃ハ得レ

詠草一

|   |    |
|---|----|
|   | 名宗 |
| — |    |
| — |    |
| — |    |

詠草の草書ハ中出ルを候ハ小トラハ也云々其ハ為ルハ  
まう類形也まうハ庭書トハ中書其ハ何ヤ  
あ乃何ハ三葉草の長縁ハ大極ア

一 懷紙書格 上位上官の御流法 中俗神世禱又神佛法樂

懐紙書格はく乃書法ありて則書格也

詠松有春色和歌

此是名と申出上位上官の時  
キククハハハハ  
折政左大臣

行ふて本れも

地指二伏

天指伏

つららあひらこ

頭書出るき前のゆキハニソノ金下

イ上ニ只手ヲ伏レテ也ト云リ

公家ニ前ノ的ニ符ヲ伏テ書

出サレト云リ是ヲ以テ是ハ云

と依クニテト云セヤ、行。

毛礼類

此の字ノ申フ云ハ云守也

右懐紙書格の事は、いへば、こと、事、之、併、不、新、也、云、々、

九字十字百字之字、小、大、の、法、之、階、級、を、極、上、の、加

ら、ら、ぬ、小、書、付、の、文字、判、別、も、ん、お、ゆ、え、に、九、九、九、

の、文字、の、法、も、な、に、と、ま、る、紙、文、と、申、御、流、の、日

月、乃、文字、を、ひ、ひ、の、ゆ、く、事、の、法、之、若、可、く、た、る、二、字

を、ひ、ひ、は、此、中、に、と、ま、る、ま、る、此、九、九、九、の、事、を、

極、上、の、瑞、字、の、頭、二、月、と、目、と、書、す、奇、の、事、也、云、々、

小、字、も、不、若、併、入、見、出、た、非、礼、の、格、と、云、こ、う、く、月、日、

と、ま、る、に、申、す、ら、う、と、ひ、ひ、と、ま、る、九、九、九、と、申、し、

限、り、し、九、九、九、の、法、の、事、を、ま、る、紙、文、書、格、

世、は、初、め、申、し、分、是、を、懐、紙、書、格、法、に、之、を、書、す、只、瑞

字、書、格、名、申、し、上、中、下、と、判、別、を、し、た、れ、右、世、の、懐、紙、書

書法奇より上り可也則中位下位の書法も書名  
名の中位在記

詠松有春色和歌

坊政古政大臣 上位

右に上位の書法必し官中可書トハハ

春日同詠松有春色

中位

和歌

権中納言藤原朝臣定家

右に中位官性名宗未如新可也

春日同詠松有春色

和歌

武井道元

右に位卑人氏名宗と可書併下位も位名之可  
有る下位も厚同知也

詠松春風和歌

大僧正行基

右に法中の前書之法中ハ如新官と名宗と可也  
上位に准く、季同と除て詠ノ字ハ可書也誰為凡  
僧ハ書名中ハ如新早とハ下可書或誰弟子  
又誰格下誰格中ト可書ト真ニ可書也

右に瑞書紙紙に書きて并に瑞紙の書初乃一字上り三行  
三字よむ可書末の帛乃に書きてすしり多也凡そ余  
と先生より人をも切るといふて人書き乃厚紙に書  
一 并二首三首の瑞帛ハ乃可書是も瑞紙の上中下法中  
瑞帛ハ別記

夏目同詠二首和歌

権中納言友原朋臣定家

河上夏月

ふる波少のころは水川乃  
こゝろをさへてはさるる人にも  
こゝろ乃月く年

山家郭公

一 右二行七字ノ書ニ三首も同夏也川合ニ投也是なり  
未のら紙をす御  
一 丑首七字川合と投はさるる二首ニその物少書也  
一 拾をく二十を登百首も是と紙何投も總合くす併拾  
首らく二首と二行よりなり記

春日同詠一首和歌

従五位下平光昭

年内立春

少乃内り 春のせははふり

ふらりて去るにえくまのし

山家初巻

ぬけ首首すく書はものごとく紙をすゆへ(一)者も素  
を引まき一天地のゆいぬ常也

一 神佛法樂の懐紙は是も方のすぬはすもすぬは  
遠しふれりきとく

冬日侍

住持社前同詠三首

和歌

遠山初巻

らりぬ

ぬ右也何首しといふる事居一是貴人法中ありき  
目同の字は可除也瑞作りの如新一くつりすもの氣  
あまると長しけりわ和守の二字ありし眼(易くきこ  
侍)目吉社神布歌禁中書

和歌

上位法中ぬ是字目同と除てぬけ也名す前ぬ瑞

秋日陪

真福寺宝殿同詠七首

和歌

於寺中ぬけ瑞作り書(一)方のすぬ名も書極前ぬ瑞

研之別集

又追善法華之別 僧帛本本 一乃名者有年也 是  
も方の本抄いふ所の管年一を一 瑞作述ふれりた  
とくハ連文なり此題とハハ別也

夏目狂漢法華普門品同詠二首

如いふも一 本抄とらるや 孝目と本抄と 同詠何と書  
事一何とこと法外之孝目とカカシ建一 同ノ字マシ 早下  
こふも本抄法世と本抄本入ありと法外之  
一 女房のくい一 書法何りや 是ハ紙簡と下 明子と  
書也亦若り一 是のうと法外系を早下 明子と  
本抄一 是よと一 本抄名も明子ありと本抄一 是よと  
一 本抄一 是よと

ハ書出セテハ明二六

あらためたり

さうしーいりち

え

あうくこのあや

ハ書出

ふりつらぬ

ヶ抄よりしきくすこ三首又らりり一 かのる也 瑞ノ天  
地ノ明前よき一 きてくは

あつ代わ子世をちらよ

こつ後乃いほとぬ

こあれむとまのこ

めいよりし一 本抄何首ともあつ 瑞也本抄



女の内いふ言はるる名不中法乃道在能とある御  
更夜道女に書付たる名に中法とあるは懐中あまの御  
みゆりゆへ今いふはけのともなくはらふもたんと云

山下志輝

うらみあそび 仙居

玉の

かたし前中より言す始前小にあり  
二首三とすまらと上の名もていれし所の成りしり  
是も十首より上三行し可也二三首乃はあらす

常磐入歌

名

松本新色

ぬけ又七首の中より半書入一是の上二首首とよ言行界同  
詠單懐中總冊自己の御しるふるや吾法も中法  
よといふとこれ例成法沙法むるも此皆傳是初歌の座  
交乃在松中とぬ 辨知命 敬大 一其歌を授  
よらや



もとりしと綴し流石の多しと懐紙とぬ出懐紙の上下の  
折り紙の用はんと又くも巻上紙初指之伏書折  
込下と二伏書折也懐紙上の折紙は乃の備  
物といふ紙は乃の添きたる神名中へ入紙早し紙巾の儀  
のふれ紙はく右の子紙膝通しとあ書備居方への進退必  
けきく<sup>此</sup>文巾もるなりをく遠く右のふれ紙は  
又直下種も書き又巻の前二二人くうにひらきと膝行  
文巻の前(考)懐紙と使ふ出たのふれ紙ありと巻  
此上中種も書折り居付方へ向く立て又府へと書むる  
右乃是と伏せた乃是紙立てたのふれ紙もるとなりと並  
向く居し扇を我下府の方より並

一 英二人のふれ進退の儀は先達の人の向事但二人

くも懐紙紙文巻のふれと並内如先進懐紙と有り右  
持たのふれも初めは懐紙と上縁上懐紙と巻上紙の  
我懐紙とありと巻上紙付初めは先進懐紙初め  
扇紙次へ居付前へ上府へとも也英人のふれは  
めしや巻上紙早戦のふれは沙法かか神と懐紙と文巻の上  
前もふれ巻上紙又回至上位は名代といひ沙法ある  
半は依り置ありと巻上紙子細あり上位あり可め初巻也  
如いの儀は相調板尚居初め一紙看く先立立文巻とあ書  
ては綴冊り一人は巻上紙紙巾一は巻上紙綴冊とて折頭  
紙内へ如折上折下と折めしと何枚ありと文巻は巻初  
仕也中府ふれと一巻紙沙法帯あり物巻者台安折折向  
つとく立文巻ふれ頭紙探つとく下府は巻上紙と折頭

下座より同新いしは世に於ての人種冊紙撰より初より  
人数八人のまゝ八題之種冊紙有るは紙を折却し書置  
て紙の半紙留ひしりふ如也

此の沙汰法諸君種冊紙にききしはしりも府紙に同  
じしき其の上は種冊と名置也凡吹の付らるる紙を折却し同  
中種冊紙に折らるる紙厚より下りきき種冊紙に  
くわ四者の人種冊紙の紙とむへし時下座の人より  
先硯と文彦をよりしり折れし紙束いし上座より面宛紙に  
りしきし世次は文彦の上より折紙束にききしり折れし  
前より空牛座出る沙汰法同前右の折紙束いし上の人を  
折るる紙種冊に折れし紙束より折れし紙束と下の文彦より  
りしきしりし者より同しりし下座より折紙束にききし

この人より前より持けり可る紙束に座よりしりしと吟書より  
折れし紙と紙束に座よりしりし折紙束に座よりしりし  
より折れし紙束に座よりしりし折紙束に座よりしりし  
の折れし紙束に座よりしりし折紙束に座よりしりし  
種冊に記し頭を脱切名の一人に批判させり後よりしりし  
くまゝしりし紙束に座よりしりし折紙束に座よりしりし

上座より一人の頭紙の名を(批判と名置)勝多紙束に  
見し文指南也此批判一人よりしりし折紙束に座よりしりし  
人よりしりし折紙束に座よりしりし折紙束に座よりしりし  
折れし紙束に座よりしりし折紙束に座よりしりし  
は名置しりし

名種冊に記し上座の人よりしりし折紙束に座よりしりし

く也此に紐母と云ふ名案紙同しと題の上へん中が極よ  
く折れりたるものよりしり糸又巻不裁り付居の事と云  
重厚一者あり事と云漏れいさく重く巻居る事と云  
先生書床の眼也人数（向ひく居座を付次）の巻居居  
即し〜文意と云居の先生乃前（向ひ居居）と云居居  
いゆは誰か文意乃向ひの事と云文意の巻居中程へ  
たの事紙入輝小居たるもの多し〜居居方此角と云居居  
生居居事と云居居事と云居居事と云居居事と云居居  
〜たの事紙入輝小居たるもの多し〜居居方此角と云居居  
〜居居事と云居居事と云居居事と云居居事と云居居  
〜居居事と云居居事と云居居事と云居居事と云居居

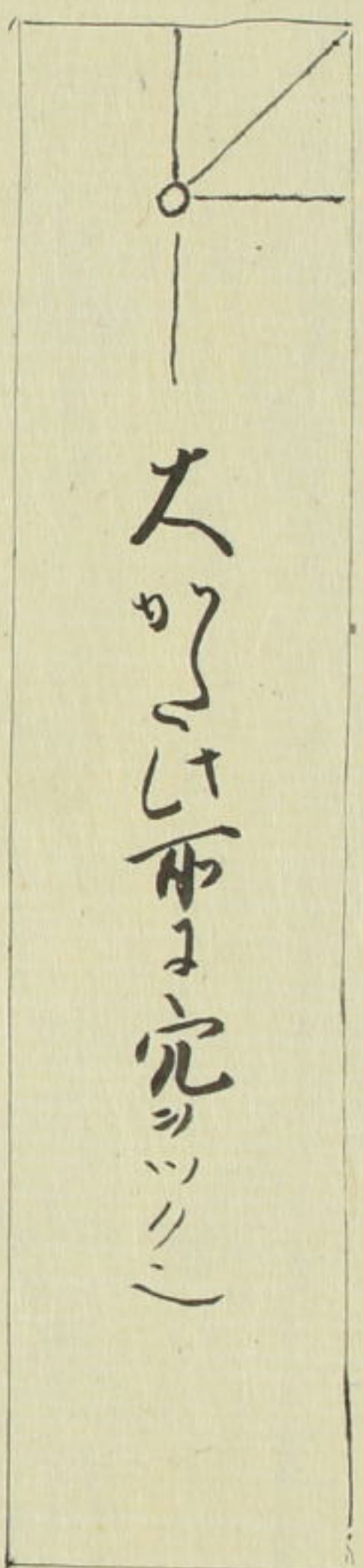
一 頭は懐帛懸紐紙ひ〜と題紙紙〜と云居居事と云居居  
者立居居事の下座は居居事と云居居事と云居居事と云居居

法懐帛と文意の上此水引と改居居〜と云居居事と云居居  
懐帛と云居居事と云居居事と云居居事と云居居事と云居居

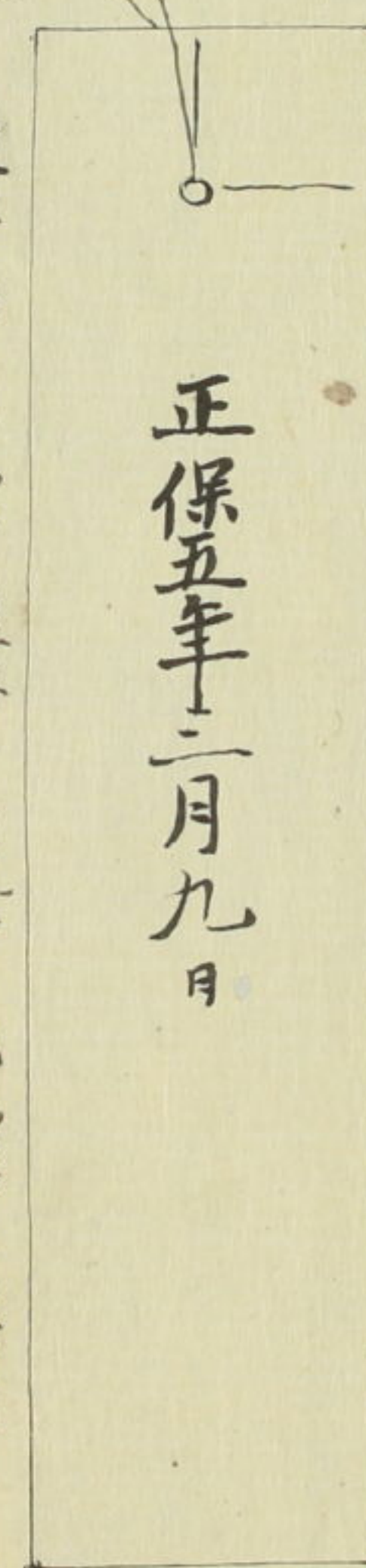
右懐帛の綴り法と云居居事と云居居事と云居居事と云居居  
少引居居事の上は改居居事と云居居事と云居居事と云居居  
是に〜と云居居事と云居居事と云居居事と云居居事と云居居  
是は書書の法候居居事と云居居事と云居居事と云居居事と云居居  
裏に〜と云居居事と云居居事と云居居事と云居居事と云居居  
大し〜と云居居事と云居居事と云居居事と云居居事と云居居  
〜書下〜と云居居事と云居居事と云居居事と云居居事と云居居

い用は紐母の綴り法と云居居事と云居居事と云居居事と云居居  
〜紐母と云居居事と云居居事と云居居事と云居居事と云居居  
大し〜と云居居事と云居居事と云居居事と云居居事と云居居  
〜水引と云居居事と云居居事と云居居事と云居居事と云居居

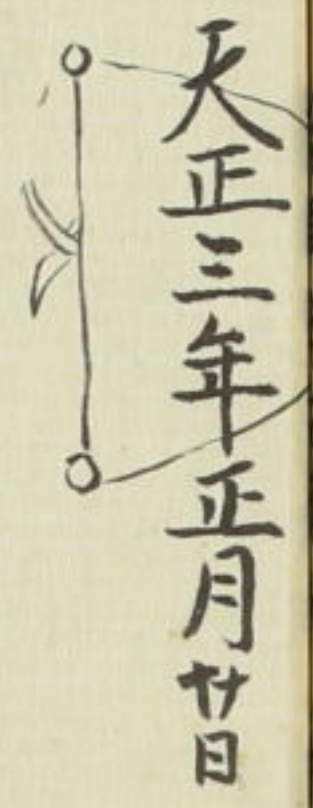
水引を二筋より一筋に絞る。依りて肥しをさるくつる。右に縦冊の紙  
 は引りて指之伏用をさる水引と一筋。水引の右に縦  
 冊をさるにさる。右者へさるりく。



右縦冊の表紙をさるりく。其右に横冊の表紙をさるりく。縦冊の  
 表紙の裏紙を中紙より一筋。書出の二字より分紙。年  
 号月日紙細を一字。書濃くぬるり。一行。年  
 号。表紙の裏紙を濃く。縦冊の濃くぬるり。の  
 大のさい

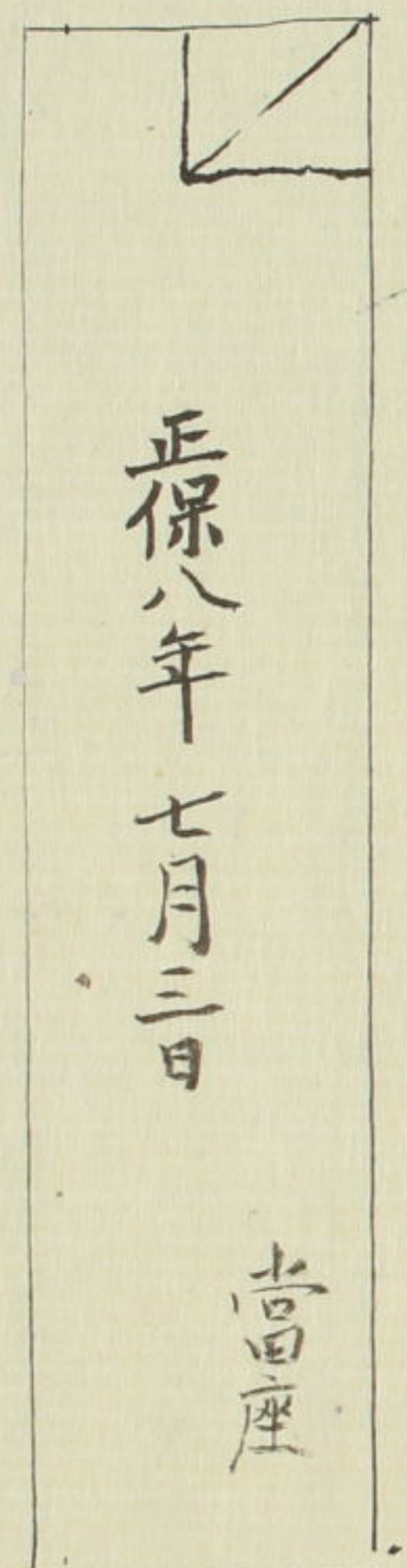


正保五年二月九日



天正三年正月廿日

是は懐紙の表紙の裏紙  
 水引をさるりく。表紙の  
 裏紙の表紙をさるりく。  
 水引の表紙をさるりく。白紙を  
 二三分を中紙。中紙の筆  
 立初一行。二カ。



正保八年七月二日

上富座

此は富座上書  
 富座の筆頭  
 かく富座を  
 かく富座を  
 かく富座を

懐紙をさるりく。付る。及書や板の風雅。ぬる。言出。書  
 人の名。表紙。也大変。く可。秘。

此懐帛短冊の裏書と云く先生一首と吟依と云此  
竹右之入意らしくと云るもして初に短冊の方と誦吟  
し次に懐紙の方と云るは先生便に誦吟せよと云書乃誦吟  
に傳其外一首乃吟依と云るは口傳あり

帛書と誦吟

春日同詠松と云名

和歌

又并の上の句とらと云るは下ノ句代也やと  
誦吟にいと云傳必誦吟一師傳紙文也一是よと云後  
次に十短冊有るは具行に云る  
一 尚府の前か一首完よ不可限を道とも或る府也

一 一ハ沙法多障也也帯り行首と云るは一ハ  
右沙正の帯ハ各末帯也進退俯仰威儀沙法帯可  
師傳也

一 十短の式あり若くは人懐帛中より出さずは  
考ふる人ありは名代と云るは先生は初より三巻下  
半より先生一首の理有紙極の別下名出帯  
執事と云る人ハ十短のりやと考ふるは不知り  
ハ事ハ未だしきこわく依是り又 公尊御會の  
田政粗足傳と云るは  
於公尊ハ至上代なり奉山宗ハ下法て云るは  
右御と云る床の脚等名同書なり其家と云る  
道の事ハ公尊よりハ沙法なり

於 公高武正の時 主上の御儀帛上位乃人大本抄判り  
入る處よりとてまじり上位中位下位と候はば  
はりりといへり

一 致の字に讀師出文處の方小若座より其後發聲を發聲  
と三致ふと云ふは發聲いとちのりて座は讀師と  
二致ふと云ふも三聲めと云ふ乃亦座

一 公高より讀師 發聲 讀師の二人位は幸先讀師は  
若老上位也 發聲は中老初老 讀師は中少く方若老  
とて達し

一 公高より讀師といふ事ありて讀師といふ字を詠吟する音  
致の甲乙を分弁し五韻相通の如しなりて初重一至三重  
少く甲乙小弁と見ふといへり

一 公高より讀師の親冊紙は取も重親の蓋し今貴高位は  
系丈より深きく小糸共いへり於地下今世探紙は  
紙の如し入はるるも也に於紙乃事紙にあり

一 公高より讀師の儀中來りても其後を讀師讀るる  
事とて二一は相痛と上よりと男乃のじのとり紙水引  
うりの方よりつりたりしや

一 公高より讀師といふはもと來法師なりと事考る紙あり  
はるるは候はるるは法師とありとて  
古より宇治山乃僧喜撰のりてなる事といふ弁道の  
事ありこの書事よりなる事といふ是も  
公高より讀師といふ事

一 本家の紙より讀師の親冊と小親冊と事より口は  
公高より讀師といふ事





延母の教書色々大夏しよる年形も口傳といへ  
 七行らうしよ事なまゝ延母小可一首らば事  
 のこし也但二首乃ちりよ二類作のつとく不書あり  
 考しよる二首七行らうしよ

|       |      |     |
|-------|------|-----|
| かふ月目  | 為とこら | りき乃 |
| むむ乃忌の | まきま  | りき乃 |
|       | きき乃  | りき乃 |
|       |      | りき乃 |

是れ七行らうしよ類作の如や名はらうしよ星乃こころ  
 かふ月目まきま二首らうしよやめいなり

|       |      |     |
|-------|------|-----|
| かふ月目  | 為とこら | りき乃 |
| むむ乃忌の | まきま  | りき乃 |
|       | きき乃  | りき乃 |
|       |      | りき乃 |

是れ二首乃ちりよ書法之上下の如しよる一一首ら  
 一そは二首乃ちりよ一首らりしよる二首らりしよる  
 又上下らりしよる二首らりしよる一一首らりしよる

|      |      |     |
|------|------|-----|
| 秀代ハ  | まよれよ | きき乃 |
| 天乃らり | あつと  | りき乃 |
|      |      | りき乃 |
|      |      | りき乃 |

右に七行の教書大夏しよる天神七代を教たり五  
 行は五運地神七代を教せりしよる中よるなりしよる  
 延母の教書色々大夏しよる年形も口傳といへ  
 七行らうしよ事なまゝ延母小可一首らば事  
 のこし也但二首乃ちりよ二類作のつとく不書あり  
 考しよる二首七行らうしよ

舞りたる書乃ら代傳はるくは辰ふつ書ら代傳はる  
平之才一の句もまの書らる才二乃色を乃中才三ハ  
六の下流きくふ代傳才四流くく代傳はる  
才五占真ノ真乃書色一のく代傳

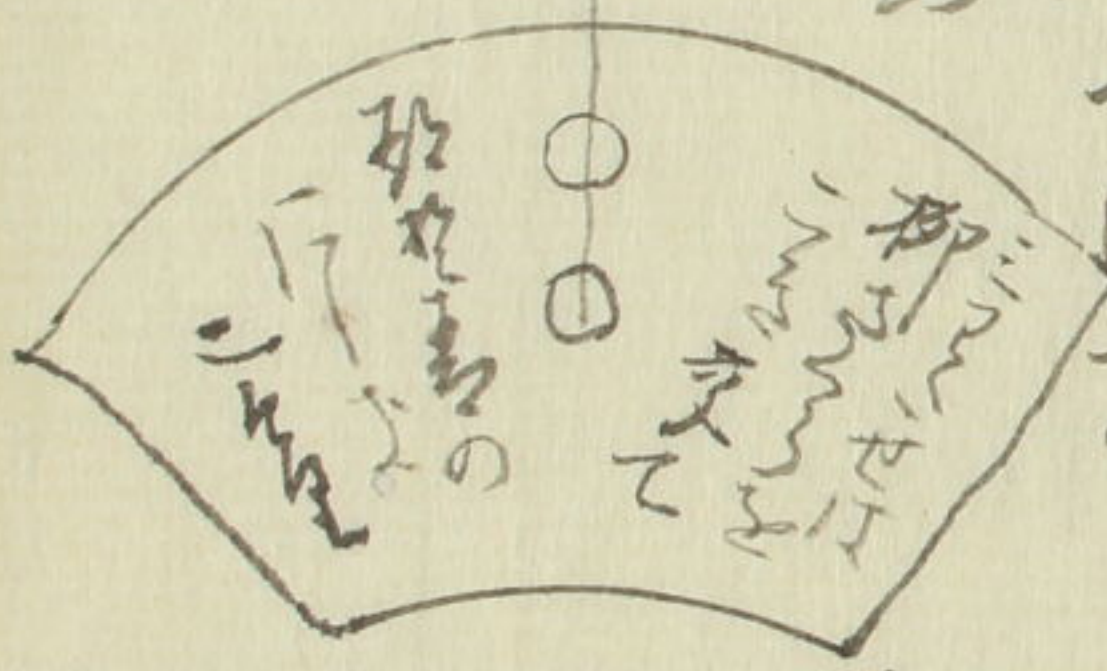
はるるるの常の書つる初中後乃色紙わく  
句乃代傳はる初中後乃色紙わく  
而ゆり信て之具代傳はる七文字ハ代傳の流し  
是ハ代傳はる初中後乃色紙わく  
去代傳はる初中後乃色紙わく

一 代傳はる初中後乃色紙わく

初の代傳はる初中後乃色紙わく  
わくすの代傳はる初中後乃色紙わく  
本也代傳はる初中後乃色紙わく  
中後乃色紙わく  
尾は代傳はる初中後乃色紙わく  
かく代傳はる初中後乃色紙わく

初の代傳はる初中後乃色紙わく

代傳はる初中後乃色紙わく



初の代傳はる初中後乃色紙わく

又扇詩紙半巾ふふいぬや

三五  
新夜中  
二十里外  
ちん心

元と書と月  
同ころ  
おや

春秋宮  
遅生長殿  
日  
不

又チ抄はもちりり可き  
何と書もいん坊女へ  
チ抄もそふの結と集  
乃さりりも不な法  
外

賞  
礼花  
秋已近  
辰星  
風の異夜初  
長

又詩紙書よりちりりふかやう  
あつは月一すく角上先  
書詩とぬ是は可き

右と趣也にわかきるく書趣大くすいんる其外五倍  
何二行七字小可半又俗人好む外のおうら書小  
致しれがしわらは上下の句下上ちりりといふ  
も書為くめて半細くよつくと可書之暇ゆぬ又物  
枝さしるく結教半しとふとのれり控乃う書つとるる  
是よりひりりさね乃教ます白木よこの半り後つお姉  
の中身のわら紙少入まとの紙二枚三枚ははとす  
乃教は何屋んもははくさくさく書ら紙試く  
しりく可き又白木よ六姉紙あひをそとの上紙  
く紙とく 羽帯も拂法め事も付る極

真下書格如是也

重後河原茂世

以長信以康海名

中入新島いよ

足米ゆ糸波名款

いよ

心平一色をやと

ふふいあも

身共 ちり  
し連 けり

消息めつ

相らん結る又見

如一枚物更なる

そ又お況やん

いよ

今りる人の

情乃 結る

ふふ  
いよいよ

いよいよ

右二色丸本共よふりしり色くすかす有し家

ふふと半通の通つる丸札もす可きりなふふと

弁聖文の中夫よか丸札も中ふりす人のそふ未

乃そふふふふ丸札もす其通す可き也文

通に長短名く可き又弁もふふ文よりりり

つとねりる丸也

一 半一初は物事なるもの御りい詩弁紙も書

なるふふふふ半半ふふふふふふふふの師傳

いよいよいよ半半ふふふふふふふふふふ

いよいよいよ可書也

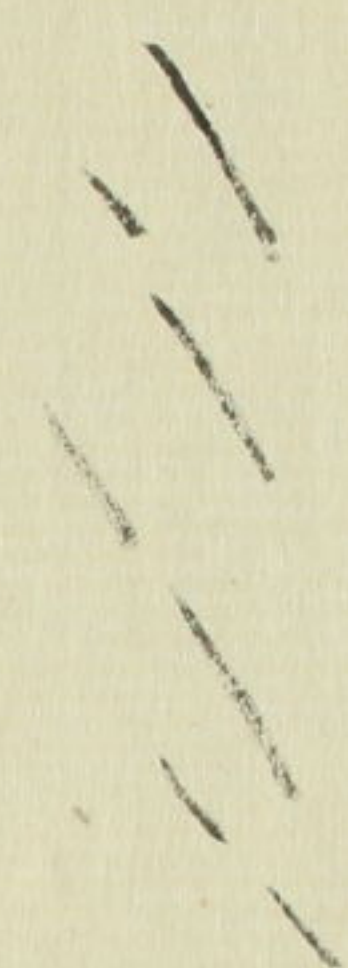
嘉辰今月欽極

一カ歳千秋樂未央

あ代とてこのね衣

まはまきこくおん

いふあ〜ん



前三寸五分のくち約

約寸を又行し事未

ゆ〜はとま〜

川等紙紙魚

一 貴人の時貴高人沙方のつ〜〜〜〜〜 紐母よ〜〜〜〜〜

沙をわら乃人〜〜〜〜〜 紐母よ不沙乃乃〜〜〜〜〜

凡が〜と沙を〜には畏〜物〜入〜衣〜帳判〜事〜沙

庭前ま〜る〜の縁〜〜〜〜〜 指〜〜〜〜〜 庭前ま〜る〜の縁〜

母が〜ら〜と〜重〜あ〜り〜さ〜む〜る〜せ〜る〜切〜ら〜る〜其〜上〜乃〜也

たの〜も〜ふ〜し〜ら〜ち〜乃〜も〜紙〜と〜縁〜と〜さ〜ら〜る〜一〜紙〜事

死乃下〜り〜し〜紐母〜若〜ぬ〜紐紙〜持〜手〜紐〜と〜ん〜と〜ひ〜の

あ〜さ〜紙〜右〜の〜も〜よ〜れ〜た〜よ〜〜一〜上〜の〜紐母紙〜を〜ぬ〜れ〜と〜乃〜よ

持〜り〜の〜さ〜と〜木〜乃〜下〜は〜重〜あ〜る〜身〜代〜ち〜乃〜も〜さ〜ら〜る〜紐母

ら〜よ〜と〜さ〜お〜ん〜の〜紐母紙〜ら〜ら〜る〜の〜持〜り〜の〜さ〜と〜乃〜れ

判〜り〜下〜り〜校〜し〜ら〜る〜と〜さ〜ら〜る〜と〜ら〜る〜と〜ら〜る〜と〜ら〜る

懐〜の〜さ〜紙〜下〜は〜縁〜を〜下〜は〜重〜あ〜る〜と〜ら〜る〜と〜ら〜る〜と〜ら〜る

の〜持〜り〜の〜さ〜又〜重〜あ〜る〜と〜ら〜る〜と〜ら〜る〜と〜ら〜る〜と〜ら〜る

〜と〜ら〜る〜と〜ら〜る〜と〜ら〜る〜と〜ら〜る〜と〜ら〜る

沙法紙可頂戴也

但かきうのけん経母の母の経統のてき  
かこしうににちのけん経母の母の経統のてき  
詩書方會連中會をも連中なるのてき  
府紙片のてきはてき我より先生より人も入る  
ふは是(一)といふはてき何れもてき下座のてき  
てきのてき紙のてき一なり

